第 2017-24 号

恵みと真理のニュース

2017 年 6 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私が今日礼拝する幸せで充満にしてくださり、障害がある体で教会と聖徒を仕えるように恵みを与えてくだった神様に感謝します

私は3級障害人で旦那も6級の障害を持っていて共に体が不便です。

私の実家はソウルで父親と舅が話しあってお見合いで24歳に結婚してアンヤンに引っ越しして住むようになりました。

結婚を決心するときにも苦難を覚悟をして大変でも乗り越えると思いましたが、結婚してみたら障害を持って舅姑を仕えるのがやさしい事ではなかったです。日々生きるのが大変で死にそうだったです。そうするうちに恵みと真理教会の区域長が隣の家に引っ越しをして来て私を伝道しました。

イエス様を受け入れた後暗闇の中でいた私の人生に光明を見出しました。心と体が大変で涙で歳月を送っていた私が世から得られない神様の愛とイエス様の恵みを悟りました。悲しみと苦痛の涙が大きい喜びと感謝の涙で変わりました。生きる理由と目的が出来て礼拝して祈って御言葉を黙想する時間が大事でした。神様の子供になって神様に礼拝を捧げ当会長の牧師の説教を聴くと感動になって心が喜びで満たされ、賛美を歌うとその心に聖霊の慰めと神様の平安が望まれ幸せでした。たとえ、不便な体ですが神様が教会と牧師を通して与えてくださる恵みに感謝し教会を仕え奉仕しながらもっと熱心に信仰生活をしたくなりました。姑が酷い言葉で迫害して私を苦しめましたが、十字架で血を流して私の罪の赦してくださり、私を救ってくださったイエス様を考えて忍耐して乗り越えました。教会の食堂と掃除部で熱心に奉仕しました。教会と礼拝のため奉仕する多くの奉仕者達が美味しくて衛生的な食事をしてまた、礼拝に参席する聖徒達がすべて私のように御言葉に大きく恵みを受けて祈りに答えられる幸せを享受するように祈って、祈りに答えられる喜びの心で奉仕しました。そのように熱心に献身と奉仕する信仰生活をすると神様は私の口を開いてくださいました。障害で発音もまともにできなかった私がまともに話できるようになったのです。この恵みを体験した私は生活の苦難と姑の迫害の中でパニック障害や貧血も神様が治療してくださる望みを持つようになりました。 特に私は貧血症状で何度も倒れました。

イエス様を初めて信じて私の魂が救われ病気と障害がない神霊な体で苦痛と悲しみがない天国で永遠に生きることが限りない感謝でした。これからは私を治療してくださる神様を仰ぎながら治療の恵みを求めました。〝恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。〟（イザヤ書４１：１０）御言葉を信じて姑が変化するため涙を流しながら祈りました。 すると驚くな事が起きました。私の心がいつも強く大胆になり貧血の症状が急に倒れることがなくなりました。 姑の心も変化されました。そのように堅かった心がまるで天使のように優しくて柔らかくなりました。神様に対して心が開かれ私が信仰生活をするように助けてくださいました。神様の恵みを考えると感激して涙が出ます。私に対する神様の溢れる愛と恵みに感謝します。健康な人でも享受されない活力を与えてくださった神さま、全ての悪い状況を勝つように新しい力を下さる神様に感謝します。天国の希望で充満になって明日を期待し常に感謝するように良い御言葉を下さって溢れる恵みを下さる神様、心の奥から出る感謝と賛美をささげます。主に呼ばれるその日まで相変わらず神様を畏れ愛し主を仕える生活をします。良い私の主神様に感謝また感謝をささげます。ハレルヤ！

［信仰コラム］　私は信じます

〝...体のよみがえり、とこしえの命を信ず、アメーン。〟(使徒信条)

使徒信条の最後の部分を五つに区分して調べてみます。

第一、'聖なる公同の教会〟に関して調べてみましょう。

'聖なる公同の教会は'英語で　'Holy catholic church' であり'church'は'普遍的、宇宙的'という意味があります。教会がとても広い領域に拡大されるのを意味します。〝ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう〟と言われたイエス様のお言葉はキリストの教会が広範囲な時代と地域、人種を含めることを表しています。教会とは神様によってこの世でお呼びをうけて主イエスキリストに属した人々の集まりを意味します。神様のお呼びを受けてキリストイエスの中に入ると聖なる人になり、聖なる公会に属するようになります。

第二、〝聖徒の交わり〟に関して調べてみましょう。

聖徒の交わりとは親密に交際をして協力し共に神様に仕えることを意味します。聖徒が他の聖徒を忌避して一人で信仰生活をすることは聖書の教えに反することです。その理由は聖徒に対する様々な名称に良く表れています。聖徒は'神様の家族'であります。聖徒は'神様の家'です。聖徒は'キリストの体'です。私達はキリストの体であり肢体であるので集まるべきで交わらなければなりません。集まって礼拝して親交をしながら奉仕すべきです。聖徒達が集まってお互いに交わると主が私達の中におられます。聖徒達が集まり論議して決定すると天におられる父なる神様が叶えられるようにしてくださいます。聖徒達が集まってお祈りする時に神様が応答してくださいます。

第三、〝罪の許し〟に関して調べてみます。

私達が罪の許しを信じる根拠はイエスキリストの聖肉親と生涯、そして死と復活、昇天にあります。知性と教養を兼ねて慈善と救済に励み、歴史に記録される程の業績を残しても神様から罪の許しを受けられなかった人は神様の怒りと審判から免れることができません。イエスキリストによる罪の許しの福音を信じるか拒否するかそれは各自の自由です。しかし、その選択の結果は天国と地獄の差をもたらします。

第四、〝体のよみがえり〟に関して調べてみます。

死ぬと朽ちる体でありますが、私達の体は軽蔑の対象ではありません。私達の体が死んでいかなる状態であってもイエスキリストが降臨なさる時に再び生きるようになります。〝体のよみがえりを信じます〟とうい信仰告白は聖書に予言されて約束されたお言葉に基づくことです。イエスキリストの復活は私達が体の復活を信じる最も確実な根拠であります。〝私達の体がどのような姿で復活するか?〟という質問に対する答えがコリントの信徒への手紙一 15 章にあります。〝そのようなことがいつ起きますか?〟という質問に対する答えはテサロニケ人への第一の手紙 4 章にあります。イエス様が空中再臨なさる時、死んだ者達がお墓から起きて生き残った私達も瞬時に変化されて雲の中に引き上げられ空中で主を迎接するでしょう。

第五、〝とこしえの命を信ず〟に関して調べてみます。

聖徒達が永遠に生きることは神様が与えてくださる最大の約束であり、最上のプレゼントです。イエスキリストを信じさえすればとこしえの命を得て、新たな天と新たな地、新たなエルサレムで愛する主と共に永遠に生きるようになります。イエスキリストを信じない人は希望に満ちている未来がない人です。もし自分なりに未来に対する希望を持っているとしてもその全てのことは空しいことです。イエスキリストを信じる人にはこの世の何事にも比較できない燦爛としている未来が約束されています。その約束は復活と天国、報いに対することです。

使徒信条の内容を知るだけでは十分ではありません。信じるべきで他の人の前で話すことができなければなりません。信仰告白は有益な結果をもたらします。信仰を告白すると信仰が固くなり、サタンの讒訴(ざんそ)を防ぎ、神様を喜ばせます。皆さんは使徒信条を暗唱する時、その意味を吟味する楽しみが充満であるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

苦難と繁栄と疾病をこんなに対処しなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

苦難と繁栄と疾病この三種類は誰も一生を通じて経験するようになる事なのでこんなことをどのように対処するはずなのかを学ばなければなりません。 苦難と繁栄と疾病に対して誰も繁栄は有益で苦難と疾病は有害であると判断するでしょう。 しかし必ずそうなことではないです。 その状況をどのように受け入れながら対処するかによって及ぶ影響と結果がとても違うことができます。 与えられた状況よりもっと重要なことはそれを対処する方法です。 今日の本文はその対処方法に対して私たちに非常に貴重な知恵と知識を提供しています。 “あなたがたの中に、苦しんでいる者があるか。その人は、祈るがよい。喜んでいる者があるか。その人は、さんびするがよい。あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。” （ヤコブの手紙 5:13,14).

第一、苦難された人は祈りなさいとおっしゃいました。

一生涯に苦難を全然経験しない人は一人もいないです。 聖書に記録された傑出した偉人の中にも例外がないです。 ヨブは純然で正直で神様を敬い畏れて悪から去った者だったし、他人達がすべてうらやむほど裕福でした。 ところで天災地変と盗賊の群れの襲撃で しもべ と羊の群れが死にました。 泣き面に蜂でヨブのお子さん皆が家が崩れて没死しました。 そこにヨブの身には悪瘡が出る形言しにくい位苦痛にあいました。 モセは王宮で育ったが同族の裏切りでミディアンの荒野へ逃避しました。 その日から 40 年間羊飼いで暮しました。 80 歳に神様に招きを受けてエジプトの王の手からイスラエル民を救出し出したが硬い民によってガナアンに入ることができずに 40 年間荒野で過ごさなければならなかったです。 ダビテはサウル王のねたみによって長期間逃避生活をしました。 王になった後にも戦地で暮すようにしました。 晩年には彼の息子アブサルロムの反逆で王宮を捨てて逃げださなければならなかったです。 これらは光栄と尊貴を享受したりしたが極甚な苦難を経験したりしました。 苦難を免除されて生まれた人は誰もいないです。
人々が苦難を対応する態度を何種類で分けて見ます。 第一は、不満がいっぱいになって歎息してぐずぐず言いながら生きて行く人がいます。二番目は、享楽を追い求めるので苦痛を忘れようと思う人がいます。 三番目は、道を磨いて修養して乗り越えようとする人がいます。 第四、宿命に思って諦めながら生きて行く人がいます。 五番目 神様の御旨だと心に刻んでおいてしまう人がいます。しかし聖書には “苦難された人は祈りなさい。” としました。 イエスキリストの名前で全能な神様に祈りなさいというお話です。 イエスキリストを信じれば神様の子に生まれるようになって神様を父と呼びます。
だから子がお父さんに助けを要請するようにお父さん神様に祈らなければなりません。 苦難の中に祈れば神様の慰労が臨みます。 乗り越えることができる力が注がれます。 苦難の中に祈れば神様がすべてのものが合力して善を成すようにします。 問題の解決のために奇蹟を施します。 苦難が光栄になって有益になるように摂理します。 聖徒の皆さんは苦難にあう時神様の助けを求める祈祷として対処してください。

第二、楽しがる人は讃尿しなさいとおっしゃいました。

誰も自分の計画するところが成り立って仕事が順調に進行されれば心が楽しいです。 だから楽しがる人と言うのは仕事が順調に進行されている人を意味します。 万事が思うようになるとか盛んになる状態にある人を意味します。 ところでこの時に我に返らなければなりません。 万事が意のようになれば自信感が度が外れて者ぶりにぬけやすいです。 そのようになれば神様を頼らないで自分の知恵と力を誇って頼るようになります。 盛んであるならば俗事が忙しすぎて楽しさがあって信仰生活がゆるみするようになりやすいです。 来なさいというところが多くて行く所が多くなります。それによって礼拝をなおざりにするようになって主の仕事に力をつくさないです。 神様を仕えなさいと下さった健康と才能と名声と権勢と物質を肉身の仕事のために使います。
心の楽しい人は讃尿しなさいと言ったが ここには二つの意味があります。 第一は、すべての光栄を神様に帰しなさいという意味です。 二番目は、信仰生活にもっと力をつくしなさいという意味です。 讃尿は礼拝において必須な要素です。 だから礼拝に力をつくしなさいという教訓です。 そして神様に差し上げて主の仕事に力をつくさなければなりません。 皆さんは仕事が順調で万事が意のようになるとか盛んになったら神様が下さった手段と機会に思って以前よりもっと熱心に礼拝させていただいて主の仕事に力をつくしてください。

第三、病んだ者がいればいやされるために祈りなさいとおっしゃいました。

人々は健康を大事に分かっていつも元気で生きるように願うがその願いどおりならないです。 この世の中に生きる間には疾病の脅威ですっかり解放された人は誰もいないです。 ところで聖書をよく見れば驚くべきな事実が分かるようになります。神様は私たちが元気なのを願ってまた私たちの病気を癒やしてくださるという事実です。 それだけでなくイエスキリストを信じる者には病気癒やす賜物と使命をくださったという事実です。 イエス様 の三年半にかけた公生涯の活動の記録の中に三分の二は病んだ者を癒やす話です。 イエス様は病気の癒すのために出た人をすべて癒やしました。 イエス様は私たちのすべての罪をあがないしようと十字架に釘付けられなくてたまらなかったです。 それだけではなくそのあがないの恵みの中では私たちを疾病とそれによる苦痛から救われるためなことも含まれています。イザヤ 53 章に記録されるのを “しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。”（イザヤ書 53:5） しました。
イエス様は復活して天に昇る直前に彼に従う人々に言いつけて約束するのを “そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」。”（マルコによる福音書 16:15～18) しました。 初めの教会はイエス様の命令に従順して病気の癒し使命をよく遂行しました。 イエス様の弟子が逼迫を受ける時も一緒に集まって切に祈るのを “ 主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしていやしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」” （ 使徒行伝，４ ：２９，３０）しました。 使徒は神様のお話を胆大に伝えることができるようになるのを祈る一方いやしと奇跡のためにも切に求めました。 教会と聖徒はいやしの福音を伝える使命をくださった神様の命令に従順しなければなりません。 神様が福音を伝えて病んだ者をいやしなさいとこまごまおっしゃったので論難する余地もなく絶対従うべきです。
イエス様は彼に出て来る病んだ者をすべていやしました。 ところで私たちが祈れば病んだ者が例外なしにすべて癒やすではないです。 私たちはその理由がすべて分かることができないです。 しかし治癒のために全心で祈った人はどんな結果でも神様の決定で受けて差し上げることができるようになります。 病気いやしのために祈れば多くの種類の変化が起きます。 1) 苦痛が止めるようになります。 2) 化学療法や放射線治療の副作用が除去されるとか軽減されます。 3) 病気の進行が中止されます。 4) 徐々に癒される場合が多いです。 5) 時には即時に癒されます。 6) 寿命が延長されます。 聖書には健康維持と疾病治癒のためにいやしの祈祷とともに私たちが実践して適用しなければならないことに対して多方面で記録しておきました。 聖書には節制する生活、清潔な生活に力をつくすように強調して教えています。 心を治めなさいと言いました。 箴言，4 章 23 節に “油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。” と言いました。

私たちが世の中を生きる間に苦難を受ける時と万事が意のようになる時そして病んだ時どのように対処するはずなのかをよく見ました。 どの状況でも私たちが神様にもっと身近に進む機会になることができます。 苦難されれば神様にもっとたくさん祈ってください。 万事が意のようになって楽しい時には神様にもっとたくさん差し上げてください。 病めば神様に病気いやしてくださるのを信仰で切に求めてください。 病んだ者のために祈ってください。 そして皆さんが当面する苦難と繁栄と疾病が神様の善良さと権能と信実するに対する体験を増大させるきっかけにならせて、神様ともっと深くて豊富な交わりを持つようになる機会にするように願います。